



※—新たな学園の創造を目指して—※

第3回フォーラムのお知らせ



下記日程にて組合との共催で、第3回フォーラムを開催いたします。
立命館の民主主義の現状に関心をお持ちの
元教職員、現任教職員、院生、学生の皆さん！率直に語り合しましょう。

15日の「立命館の危機を克服し、新たな学園創造をめざす大集会」は、学生・院生・教職員はじめ校友、元教職員、市民含めそれぞれの思いを集め752名の参加で大成功しました。

今回は、学園の改革を考える上でひとつの重要なテーマを設定しました。現役の皆さん、前期定期試験の最中で何かと忙しいと思いますが、どうか万障繰り合わせてご参加ください。

第3回フォーラム

【テマ】

「総長選挙のあり方を問う—法政大学の運動経験に学ぶ—」

【会場】衣笠キャンパス 至徳館（旧中川会館）———401 会議室

【開催日時】2008年7月26日（土） 開場：午後1:30

開会：午後2:00～4:30

【コーディネーター】

●斎藤 敏康氏（立命館大学教職員組合副委員長）

【報告者】

法政大学の総長選挙規程をめぐる議論と運動の経過

●長峰 登記夫氏（人間環境学部教授） ●岡野内 正氏（社会学部教授）

立命館の「総長選任規定」の問題点と選任経過

●小堀 眞裕氏（法学部教授）

★懇親会：午後5:00～ 会場：カルム 会費：3000円（学生・院生無料）

※フォーラム終了後、報告者を囲んで懇親会を開催します。

主催 立命館大学教職員組合

共催 「立命館の民主主義を考える会（元教職員）」

フォーラムへのお誘い



法政大学は立命館大学と同様に、学園民主主義の伝統に支えられた大学として、以前から有名でした。ところが1990年代に総長に就任した清成忠男氏（現学事顧問）は、新学部の新設を矢継ぎ早に行き、業界筋では「東の立命」と呼ばれたこともありました。そして立命館と同様に、2004年の私学法の改正に際しては、それに呼応した寄付行為の改正によって「理事会は学校法人の最高意思決定機関」にしなければならないとして、総長選出の方法までも本学での変更の狙いと同様、『現理事会に後任選び』の規定に変えようとしてきました。

これに対して教授会や労組をはじめ、退職教職員をも含めた幅のひろい慎重審議を求める運動がおこり、「法政大学のあり方とガバナンス問題を考えるテーチン」－「法政大学のあり方を考えるテーチン実行委員会主催」が形成されていきました。その結果、何度か強硬突破を図ろうとして画策してきた法人執行部も、例外的に50名の推薦のある者を候補者に推薦する方法を提案するまでに譲歩せざるをえなくなりました。そしてその方法で総長選挙が行われ、みごと「あり方を考えるテーチン実行委員会」の中心メンバーが勝利を収めることになりました。

そこで、今回のフォーラムでは、次の諸点を中心に法政大学での取り組みから教訓を得たいと考えています。その他質疑応答もしますので、是非、ご参加して下さい。

①世代交代期において、新しい世代の教職員に、法政大学のアイデンティティを、どのように伝えていったのか。②学校教育法に基づいて、教学権の保障を担保する、「学部長会議」の役割は、どのように検証したらいいのか。③新しい執行部に代わって、学園運営はどのような変化は生まれたのか。トップダウンに慣れていた教職員にとって、意識の変化はあったのか。

講師を囲んで交流懇親会！

フォーラムの後、前回同様、懇親会を開きます。法政大学からの講師の方の歓迎会という意味が含まれていますし、また2時間半のフォーラムでは語り足りなかったことを語りあうということも大切なのだと心得ています。学生・院生さんたちは、これまた前回同様、無料です。どうぞ、日頃の鬱憤を晴らしつつも、学園の現在を憂い、誇りある未来の学園を構築する展望に確信をもち、明日の活動の糧にさせていただければ幸いです。こちらにも宜しく足を運んでください。

事務局連絡先：

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学教職員組合 気付

「立命館の民主主義を考える会（元教職員）」

TEL:075-465-8200（宮澤気付） FAX:075-465-8201

メールアドレス rits.democracy@gmail.com

ホームページアドレス <http://rits-democracy.blogspot.com/>